

現代に生きる「朝鮮通信使」― 交流の最前線から

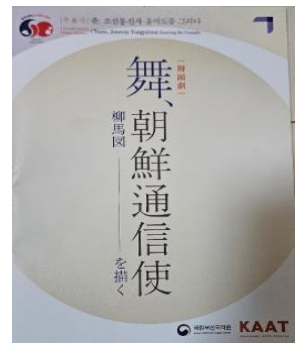
神奈川県のご皆さん、こんにちは。韓国・京畿道から神奈川県に派遣されている交流職員の宋有利と申します。気がつけば、この1年間の派遣も終わりに近づいています。そこで、この節目にあたり、神奈川県と韓国・京畿道との行政・人的交流の意義について、皆さんと一緒に考えてみたいと思い、最後の報告書としてまとめました。特に今年は、神奈川県と韓国・京畿道が友好交流 35 周年を迎える記念すべき年でもあり、両地域の交流の深さを改めて感じていただければ幸いです。

【（舞踊劇）「舞、朝鮮通信使、柳馬図を描く」を鑑賞して】

6月に国際課の同じグループの方から「韓国の舞踊劇で、神奈川県に招待状が届いているので一緒に見に行かないか」とお誘いをいただき、7月19日に「舞、朝鮮通信使、柳馬図を描く」という作品を観る機会がありました。せっかく日本にいる間に、韓国の国立舞踊団が、わざわざ神奈川で公演してくれるということで、ぜひこの機会に生で鑑賞したいと思いました。



この公演は、釜山国立国楽院とKAAT(神奈川芸術劇場)が共同で企画したもので、朝鮮時代における日韓間の外交使節である朝鮮通信使を主題とし、伝統的な要素と現代舞踊を融合させた独創的なものでした。歴史的事実と象徴的意味を結びつけ、日韓両国の交流史を現代舞踊という芸術表現を通して再解釈した舞台芸術であったと思います。



終盤では、日本に渡るため、海で台風と苦戦する朝鮮通信使の姿と、自分自身の状況が重なり、思わず胸が熱くなる場面もありました。交流職員として神奈川に派遣されている自分にとって、この公演はより深く心に響くものでした。私だけでなく、日本で勤務している友人たちも同じように日韓交流に取り組んでおり、その活動についても併せてご紹介したいと思います。

大学時代、日本の東京で一年だけ交換留学をした経験がありますが、私の大学からは私一人だけでした。一方、ソウルの高麗大学からは20人以上の学生が同じタイミングで交換留学生として来ていました。同年代のほかの大学の人たちと異国の地で出会えたのも何かの縁だと思い、留学生寮と一緒に住むことになったので、とても仲良くなりました。気づけば学校の授業も、サークル活動も、バイトもいつも一緒に、せっかく日本に来ていたにも関わらず韓国語だけで過ごしていた日々でした。それから18年後、ありがたいことに、私は京畿道の交流職員として再び日本で生活するという貴重な機会をいただきました。学生時代の留学とはまた異なり、日本人に囲まれて日本の行政現場を体験することができました。こうした環境の中で、日本語能力を含め、日本に対する理解を一層深めると共に、多くの神奈川県の方々と交流できたことは、自分の人生においてかけがえのない一年だったと思います。このような貴重な機会をいただいたことに、深く感謝申し上げます。

【異国で会った韓国の仲間たち ― ①韓国大使館の友人】

そのような中でも、思いがけない場面で自分と似たような立場にある韓国人との出会いがあり、日本での生活がより豊かなものになりました。韓国大使館に勤務している友人とは、皇居のガイドツアーで偶然出会いました。8か国語に対応している皇居のガイドツアーに参加した際、日本語と韓国語のどちらにするか迷いましたが、せっかく訪れた皇居で内容をしっかり理解したいと思い、韓国語を選びました。ツアーの途中、自撮りをしていたところ、ある女性が「写真をお撮りしましょうか」と親切に声をかけてくれ、それをきっかけに会話をするようになりました。

彼女は韓国大使館に派遣されている韓国の国会所属の公務員で、日本でいう、国家公務員です。その後、彼女の招きで韓国大使館を訪問する機会もいただき、交流職員として日本に滞在している間に貴重な経験ができたことは、忘れられない思い出となりました。



▲韓国大使館で

彼女は韓国の国会議員と日本の議員との間で議員外交を担当しています。韓国から来日する議員に



合わせて、日本での訪問先や日程、面談相手を調整する過程で、日本への理解を一層深めることにつながると言います。議員外交は、日韓の相互交流を促進する重要な柱の一つであり、両国の関係構築に寄与する大切な仕事です。毎日残業で忙しいのに、いつも明るい顔で前向きな彼女にエールを送りたいと思います。

【②横浜総領事館の領事】

また、彼女の紹介で横浜総領事館の領事とも知り合うことができました。私たちは日本と韓国の懸け橋として日本で働いているという共通点から、長年の友人のように心を開いて様々な話をすることができました。領事とは神奈川県イベントでも度々お会いし、「皇居での偶然の出会いがこのようなご縁にまでつながるとは！」と笑いながら語り合っていました。大使館と総領事館で働いている二人は、韓国を代表する外交官として多くの役割を果たしています。韓国の国会と外交部(日本の外務省)で働いている二人は、韓国でだったら中々出会うことができなかったと思いますが、日本だからこそ友達になれました。



【③横浜市役所に派遣されているソウル市の交流職員】

さらに、横浜市役所に派遣されている方とは、かつてソウル市庁に派遣されていた横浜市職員の集



まりで知り合いました。地方公務員として派遣されている共通点から、意気投合し、互いに交流公務員としての生活を励まし合い、支え合う存在となりました。横浜市は韓国からの訪問団も多く、彼女はとても忙しいと思いますが、二人の子供を育てながら、公私ともに誠実に取り組む姿を見て、心から尊敬していました。

ソウルと横浜の間で訪問先との調整やソウル市から課された論文の仕上げで忙しく過ごしている彼女にも応援の言葉を届けたいと思います。3人とも神奈川県での勤務をきっかけに出会い、日本での生活を共有しながら支え合った大事な仲間です。日本・神奈川県が結んでくれたこの縁を韓国に戻ってからも大事にしていきたいと思っています。

【神奈川県での一年間を交流を終えて】

それぞれ所属も業務内容も異なる3人ですが、交流職員や外交官としての私たちは、まさに21世紀の「通信使」として同じ役割を果たしているのではないのでしょうか。自分の仕事に誇りを持ち、日韓の懸け橋として活躍している彼女たちの姿は、私にとっても大きな刺激となりました。

神奈川県と韓国・京畿道が友好交流35周年という節目の年に、交流職員として派遣されたことを、心から光栄に思っております。一方で、私の何気ないミスや失敗が、韓国人や京畿道庁の職員全体の印象に繋がってしまうかもしれないと思うと、母国での生活以上に常に緊張感を持って過ごしていたのも事実です。いくら日本語を勉強していても、観光ではなく日常生活を送るのは18年前の一年間の交換留学以来でした。文化の違いに戸惑ったり、理解できないことを言われたときには、自分の立場をうまく伝えられないもどかしさに、悩んだことも何度かありました。「朝鮮通信使」が荒波に苦しむ姿を見て、思わず涙が出てしまったのは、異国で悩んでいた当時の自分と重なって見えたからかもしれません。

一年の生活を通して、外国での出来事は感動も失望も、母国で経験するより何倍も強く心に響くものだということを、身をもって実感しました。人に傷つけられることがあっても、また人の温かさに癒され、まるで何事もなかったかのように忘れることができました。あの時代の朝鮮通信使たちもきっと、日本で誰かの温かい心に触れた瞬間、大海の荒波の苦しみなどすっかり忘れてしまったのではないのでしょうか。私もここ神奈川で、多くの方々の優しさに支えられながら、日々を乗り越えることができました。これも神奈川県の皆さまのお陰です。

この節目の年に、あの公演に出会えたことをきっかけに、改めて考えさせられました。血の繋がった家族や親しい友人でさえ、言葉にして伝えなければ、何を考え、何を望んでいるのか分からないことがあります。ましてや異なる言語を使う私たちにとっては、知らないうちに誤解を生んでしまうこともあるでしょう。だからこそ、相手に悪気がないことを信じ、寛容な心で向き合う必要があるのだと思いました。（もっとも、たまに本当に悪気がある方に出会ってしまうのは仕方ないですね笑）

この一年間、皆さまのおかげで、日本での生活がかけがえのない思い出となると共に、私自身を大きく成長させてくれる貴重な経験となりました。韓国に戻った後も、ここで得た学びや繋がりを大切に、日韓のさらなる架け橋となれるよう努めてまいります。神奈川県の皆さま、暖かく迎えてくださり、本当にありがとうございました。また皆さまにお会いできる日を楽しみにしております。